

平成30年度職員提案の流れ

提案の募集

- ・募集期間:6月4日(月)～7月13日(金)
- ・応募数:20件

一次審査

- ・審査期間:7月20日(金)～8月17日(金)
- ・審査員:市システムを使用可能な全職員
- ・市システムを使用し、全職員による審査を実施
- ・20件⇒17件に選抜

最終審査

- ・審査期間:10月4日(木)～10月19日(金)
- ・審査員:職員提案審査会委員(市長、両副市長、企画部長、総務部長)
- ・最終審査へ選抜された17件について、職員提案審査会委員5名による書類選考を実施

各賞の決定・事業化の検討

- ・一次審査の採点結果と最終審査の採点結果を合算し各賞を決定
- ・点数の割合により、市長賞・1級・2級・努力賞の各賞を決定
(平成30年度は、2級1件、努力賞16件)
- ・最終審査の得点が60%以上の取組については、実施に向けて積極的に検討すべきものとする

各賞受賞提案一覧 1

件名	提案概要	賞
公用車の事故予防システム導入	公用車にGPS搭載の車両管理システムを導入し、急加速・急ハンドル等の危険挙動を帰庁時に職員に伝達。事故多発地点を蓄積していき研修等に活用し、事故の予防を行う。	2級
「Repl-AI」導入によるごみの分別促進	地域により異なるごみ収集日や、引っ越しの際に困るごみの分別方法などについて、アプリで簡単に検索・把握できるようにする。	努力賞
困ったときの消防お助けアプリの開発	心肺蘇生法などの応急手当や、119通報の対応要領、防災に役立つ情報(防災のライフハック)などをアプリで作り、いざというときに市民がアプリを活用し、救命、防災に使用する。また、テレフォンCPRなどのトレーニングモードや、心臓マッサージのメロノームの音声も出すようにする。	努力賞
テレワーク導入検討	最新のICTシステムの活用等によるモデル実施の実証結果も踏まえ、テレワークによる在宅勤務の導入検討を行い、働き方改革の一助とする。	努力賞
小田原の魚をPRするインスタグラマー	小田原の魚の料理等の写真を、Instagramにアップする方(店も可)を募集し、定期的にアップしてもらう事で、小田原の魚の魅力を発信する。	努力賞
小田原市統合型GIS(地理情報システム)システムの構築	小田原市統合型GIS(地理情報システム)システムの構築	努力賞
スーパー職員「アイ(AI)」	業務上必要な知識やノウハウをデジタル化して取り込むAIを導入し、必要な情報を簡単に示してくれるアプリを開発する。	努力賞
チャットボット(AI)による市民対応	「補助金の相談先は？」等、市民のPC・スマホからのメッセージに対して、自動返信をするチャットボット(AI)を導入し、職員の負担軽減と市民サービス向上を見込む。	努力賞
データに基づく交通安全対策の実施	人の感覚だけではなく、カーナビ等のデータに基づく交通安全対策の実施を行う。また、各所管で行っている交通安全対策を一元化することで市民と職員の負担軽減を見込む。	努力賞

各賞受賞提案一覧 2

件名	提案概要	賞
放置自転車管理システムによる効率化	撤去した放置自転車の情報をタブレット端末入力やシステム管理により職員の負担軽減を行う。即データ化した情報を元に市民への早期の引取り依頼や再発防止等の対策が可能。	努力賞
公衆無線LANの整備	民間事業者の協力により、公共施設に公衆無線LANを整備する。	努力賞
財務会計システムの改善	会計伝票に添付する見積、納品、請求書等の書類をデータ化し、紙伝票に決裁行為を廃止する。納付書の納付先にコンビニを追加する。	努力賞
ペーパーレスと情報公開	職員にタブレット端末を配布し、会議等での紙資料の配布を廃止する。決裁行為についても、電子決裁を全庁的に導入し、ペーパーレスを徹底する。	努力賞
保育事務ICT化計画	保育記録作成や保護者への連絡にスマートフォンを活用して、保育しながら記録作成や連絡等を行うほか、臨時職員の出退勤管理をICカードで行うなど、事務を省力化する。	努力賞
位置情報を活用した防災情報システム	位置情報を利用し、災害発生時に危険な場所にいる方に対し視覚的・聴覚的情報を提供する。(例:危険な塀付近にいる方に警告音を発する、危険箇所を地図上に表示する)	努力賞
議事録作成支援システムを利用した議事録・記録作成	パソコンで音声認識ソフトを利用することで、取り込んだ音声ファイルの書き起こし作業ができるため、議事録や記録作成にかかる時間が短縮できる。	努力賞
画像ファイルのアーカイブ化	タグ付け(キーワード・撮影日・所管課・使用許諾の有無など)画像データを庁内で共有・一元管理する。重複したファイルの削除によって、ファイルサーバの負担も軽減できる。	努力賞